新潟市立小針小学校

こばりの子

令和４年４月２１日発行
No. 1
児童数６６０名

重き使命の学舎　～明日もまた来たいと思う学校～

校　長　　山田　哲哉

重き使命の学び舎に　人をはぐくむことの　いとむづかしきことかも
子等と　共に　歩まんと　我願ふかな

昭和６１年３月末，翌４月からの私の教師人生のスタートに当たり，明治３５年生まれ，尋常小学校卒の母方の祖母から贈られた言葉です。

この言葉にこそ，私の教師としての初心があります。この初心があるからこそ，私は教師を続けていられるのです。

５年ぶりに学校に勤務するに当たり，改めてこの言葉をかみしめました。３６年前の言葉ですが，学校が「重き使命の学び舎」であり，「人をはぐくむこと」が難しいのは，今も変わりません。むしろその責任の重さ，難しさは増しているでしょう。

２年余り続くコロナ禍の中で，改めて学校の果たす役割が浮き彫りになりました。２年前，最初の全国一斉休校期間のころ，教育研究家の妹尾（せのお）昌俊氏は，学校の三つの価値を次のようにまとめています。

【安全】子どもたちの命と健康を守る。学校が社会の感染を広げない。
【教育】子どもたちの学びを止めない（学習権を保障する）。心身の健全育成を図る。
【福祉】保護者は安心して子どもを預けられる。給食で栄養のある食事ができる。

学校は，この２年余り，保護者や地域の皆様と連携・協力し，この三つの価値のバランスをとりながら，決して子どもたちの学びを止めぬよう，最大限の努力をしてきました。もちろん，わが小針小学校もです。

感染対策と子どもにとっての教育的意義の両立を図るには，何を制限し，何を補強し，何をどのように工夫すれば，コロナ禍にあっても充実した教育活動を行うことができるのか，皆で智恵を出し合い，汗をかき，「子どもファースト」で取り組んできました。

４月８日に行った入学式では，密を避けるため２年生以上は参加しませんでしたが，多くの保護者，来賓の皆様からご臨席賜り，新入生の入学をお祝いすることができました。前後の感染対策を徹底したうえで，６年生が新入生と手をつないで入場しました。

手をつなぐことで，新入生はぬくもりの中で安心して入場し，６年生は母性，父性ならぬ姉性，兄性がにじみ出て，最高学年としてのよいスタートがきれたと思います。子どもにとって意義があるかどうかは，今後も様々な選択場面で忘れたくない視点です。

新入生と６年生が手をつないで入場する姿を見て，私は，「重き使命の学び舎」で「子等と共に歩む」決意を新たにしました。

４月１日の職員会議で，チーム小針の教職員に，「子どもも，教職員も，保護者も，地域の皆さんも，来校者も，『明日もまた来たい』と思う学校」を創ろうと語りました。始業式で，２年生以上にも話しました。

コロナ禍はまだまだ続きそうですが，保護者，地域の皆様と手を携えて，「重き使命の学び舎」で，学校の三つの価値を最大限発揮しながら，「明日もまた来たいと思う学校」を「こばりっ子と共に」目指します。１年間どうぞよろしくお願いいたします。